

柘植地域 まちづくりだより 第200号

発行 柘植地域まちづくり協議会事務局
三重県伊賀市柘植町一〇六四七番地
(柘植地区市民センター内)

発行日 千五九一四〇二
電話 四五八八八〇 FAX 四五八八八三

柘植地域内12か所にカラー版設置中です

冬草
遠き風車の
回りけり
藤井千恵子

議員さん!

柘植地域のこと、よろしく!
…議会報告会、今年も盛り上がる!

10月19日(木)夜、3月の選挙後初めての伊賀市議会報告会が柘植地区市民センターで開催されました。

住民約70名の参加の下、9月議会の報告に続き当地域から伝えてありました内容(左記)に沿って、議会としてのお話をうかがうことができました。

主な意見交換の項目(内容)

- 市役所南庁舎の利活用について
- 公共施設最適化計画について
- 人権同和分野(市民意識調査の活用)
- 健康福祉分野(在宅医療、2025問題)
- 生活環境分野(土地利用、水道事業、ゴミ処理施設、太陽光発電施設規制、自主防災・避難所関連)
- 教育文化分野(ウィッツ青山、図書館)
- 産業交流分野(柘植駅活性化、行政バス)
- 女性参画社会実現の分野
- 分権自治分野(伊賀流まちづくり、まちづくり協議会への支援、消防団)

ほか



百上真奈議員(班長)、福田香織議員、川上善幸議員、桃井弘子議員

参加者アンケートより

○市議会はどんなことをしているのか知りたくて参加しました。年2回はこうした場が必要だと思います。
(70歳代男性)

○仕方がないと思うが、「議員」的な回答で質問者の思いに通じていなかったようにも思った。
(60歳代男性)

○地域のごときは地域で解決する方向に向かっているが、行政はもっと積極的に地域に入り支援していく必要を感じた。
(60歳代男性)

○住み慣れた地域で安心安全に暮らしていきたい。これからも生きがいとしてボランティア精神でがんばっていきまます。その支援をお願いします。
(70歳代女性)



第十五回伊賀の国、 柘植の齋王群行 を終えて…

2003年(平成15年)にランプの
会12名の会員が初めて群行を開始して
から、15年が経ちました。

その間いろいろと苦労がありました
が、地域の皆様のご協力のおかげで今
日まで続けることが出来ました。

地域に根差し、伝統を継続していく
ためには多くの地元の方のご理解とご
協力が無ければ続きません。

「好きな者が勝手にやっとなるわ！」
との声も聴きますが、全く気に致しま
せん。へ何のお祭りもない柘植です。

「何か一つお祭りづくりを！」との思
いで続けて参りました。

私たちの群行は他に無い特徴を出す
ために、「伊賀流」と云います。多額
の資金があるわ
けではありませ
んから、全て「手
創り」なのです。



平成20年に「葱華輩(そうかれん)」
が完成しました。小学生の齋王さんが
登場して、それ以来、子ども・成人の
齋王さんと続き15回となりました。

柘植地域まちづくり協議会の実行委
員会として、皆様の協力を頂きながら、
本年も無事、開催を終えることが出来
ました。



地元愛・郷土
愛の精神からみ
んなで力を合わ
せて事業を続け
ることの大切さ
は、「まち協」
の事業としても
誇りであると思
います。



特に今年は記念すべき15回でした。
伊賀市岡本市長様をはじめ約30名の御
来賓を迎え、「えっ…、柘植でこんな
行事をしているの!!初めて知った
わ。」とのお声を頂きました。自信と
誇りを持ちたいと思います。

スタッフ約50名、役者90名の規模で
す。今後とも継続していきたいとおも
いますが、地元が一丸となり、一層の
ご協力をお願いいたします。

最後にご支援を賜りました企業様に
心より感謝申し上げます。

実行委員長・中村忠明





↑ あけぼの学園高校のみなさん



↑ 都美恵太鼓のみなさん



↑ ふるさと音頭保存会のみなさん



岡島優紀子さん(斎王役)
武内涼葉さん(子ども斎王役)



↑ 顔出しパネルで斎王さんに
← 柘植小学校のみなさん



お知らせ

山出区しぐれ忌協賛事業実行委員会

をお待ちしております。

当日、本堂では、柘植小学校児童の「芭蕉さんへの絵手紙」、「手向句集」の展示、本堂桃青殿では「芭蕉翁献詠俳句」の特選句の掲示。境内では、山出区有志による「菊花・寄せ植え展」

開催、ご来場者には、山出区むらづくり推進委員の女性等による甘酒、お茶のもてなしもあります。俳句募集もしておりますので、皆様のお越しをお待ちしております。

近江の芭蕉

松尾芭蕉の世界を咏する

講師・猪飼由利子さん

(近江文学研究家)

(11時53分開会予定)

本年度は「しぐれ忌」PR用の幟を製作し、会場近辺に立てる予定です。当日午前九時半からコーラス「ユウ」による「芭蕉讃歌」合唱、開式のことば、顕彰のことば、法要、墓参、献花と続きます。二十時十分からは、次の記念講演を開催します。



平成二十九年度「しぐれ忌」のご案内

山出区では芭蕉さんの遺徳を偲び、毎年十一月十二日に「しぐれ忌」を萬壽寺(山出区)で開催し、その偉業を顕彰しています。

柘植保育園運動会

10月1日(日)午前、青空の下、子どもたちはクラスや年齢たてわりグループで競技や発表を披露しました。

統合2年目、現在柘植保育園は7名の園児が通っています。幼年期のからだづくりとして、日々取り組んでいる「にんにんタイム」。その成果として、綱引きや玉入れなどの競技にも、力を発揮していました。



**オープニングでは
ペットボトル太鼓を
ハッピー姿で披露しました。**

三重県人権同和教育研究会テーマ

差別の現実から深く学び、生活を高め、未来を保障する「教育」を確立しよう。

第51回となる三重県人権同和教育研究会が、10月14日(土)と15日(日)に、桑名地区4市町「桑名市・木曾岬町・いなべ市・東員町」で開催され、いがまち同和教育研究会の一員として、保育園・小学校・中学校関係者や柘植地域まちづくり協議会から多数参加しました。

一日目は全体会が桑名市民会館で県内各地から約3000人が集まり、開会行事・地元報告で取り組みの状況を学びました。



近年、桑名市内で複数回にわたり(9回、313枚)「部落差別ピラ」がばらまかれるという許しがたい事件が発生(犯人はつかまった)するなどしました。また、凶器入りの文書が運動団体に届くなどの事件もあり、こうしたことから部落差別意識が根深いことがわかります。

昨年(平成28年12月)「部落差別解消法」施行、今年には三重県の人権条例が20年となります。

「人権」をまちづくりの基盤に据え、柘植地域の取り組みを大切にしたいものです。

なお、2日目、柘植小学校(米山裕子先生)から発表がありました。11月に行われる全国大会にも参加されることになりました。地域の学校の活躍を応援していきたいものです。

本誌は、おかげさまで創刊200号となりました!

★★★事務局だより★★★

▼行事の多い9月10月に行う一つひとつの取り組みをもう少し組み合わせることで総合的に行うことはできないかと考えています。▼昨年からは始まった観光振興会の斎王群行ウォークは、柘植駅から芭蕉公園・柘植歴史民俗資料館・徳永寺を巡って、斎王群行に合流。13名の方に秋の柘植散策を楽しんでいただきました。▼台風21号襲来時には、自主防災活動として、市民センターを拠点に本部を立ち上げました。衆議院選挙もある中、行政や消防団とも連携して情報共有などができたと思います。「備えあれば憂いなし」の精神でこれからも地域全体で取り組みたいものです。▼ところで、今号は創刊200号、平成16年3月31日に第1号を発行以来、13年7か月が経過しました。第1号には、当時の会長の弁で「まちづくり」とは何か書かれています。



「まちづくり」とは、まさにわたしたちが主体となって、活力があり、快適で暮らしやすく、だれもが愛着と誇りを持てる住みよいまちに、柘植地域を創り、育てる取り組みです。

いま振り返ってみるとき、「柘植地域」をどのように育ててきたのか?、育て方はどうだったのか?など、柘植地域に住むみんなが考えていただきたいと思えます。(協議会員はすべての住民です!)▼人間でいえば13歳、まだまだこれからもしっかり基礎固めをしなればならない年代です。きたる「少子高齢・人口減少」をはじめとする数多くの問題に立ち向かう体力・知力、そしてスキル力をみんな育てましょう。(西田方計)